成田のむかし❶

このコーナーでは長年、市内の小・中学校で教職にあった蛭田光城さんが市立図書館発行の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。

害虫駆除

文　蛭田光城（ひるたみつき）
絵　野上和彦

「おじいさん、田んぼの苗が伸びてきたよ」
「そうか、昔だと害虫駆除をするころだな」
「害虫駆除って何なの？」
「田に植える苗が、十五センチ程に伸びたころ、※螟虫の蛾が葉へ卵を生み付ける。すると卵から幼虫がかえってね、その幼虫が稲の髄の中へ入って食い荒らすのさ。だからこの虫を髄虫ともいうんだよ。この虫は五・七・九月と三度も生まれ変わって稲に害をあたえるんだ。だから放って置くと大変なことになる。そこで役場で駆除を奨励するし、学校でも協力して、年二回害虫駆除の日を定めてるのさ」
「おじいさんも卵を採ったの？」
「ああ、採ったよ」
「どんなふうにして採るの」
「一メートルぐらいの棒を用意して、この棒を持って苗代へ入るんだ。十五センチぐらいに伸びた苗を棒で押さえて五十センチぐらい動かす。黄白色の卵が葉に付いていればその葉を採る。見つからないときは、三回くらい同じことを繰り返して先へ進むんだよ」
「おもしろかったの？」
「うん。友達同士競争だからね。学校の帰り道に相談して、三、四人で行くんだ。見つけると『あったよう』など大声が出る。友達が集まって来てその卵を見て『よーし、おれも採るぞ』と心にきめて、探しはじめる。こうして一回に十本あまり採ったかな」
「とった卵はどうするの？」
「卵を集める日が二回あってね、この日に今まで採ったのを買ってもらう。十個が一銭だけど、子どもにとっては大きな収入だったよ。そのお金を持って、仲のよい友達と、自転車へ乗って、にぎやかな安食の町へ行くんだ。真白なランニングシャツやパンツなど買って、かけうどんを一杯食べる。自由にお金を使うなんて、全く王子様になったみたいなうれしさだったんだ。今でもかけうどんのうまかったことを思い出すな」

※めいちゅう（ずいむし）
【螟虫（髄虫）】
メイガ類の幼虫。主にニカメイガやサンカメイガの幼虫をいう。稲の髄に食い入り大きな害を与える。（大辞林／三省堂）

編集後記

わたしたちが生まれる前の成田の暮らしはどんなふうだったのでしょうか。今回から始まった「成田のむかし」はそういった身近な生活の歴史を市内で生まれ育った蛭田さんが本人の体験を交えて書きつづったものです。蛭田さんの作品を通じて教科書や歴史の本には載っていない、当時の生活の一端を感じ取っていただければと思います。

成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

平成19年7月15日号　No.1103　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

広報なりたは再生紙（古紙配合率100%、白色度81.5%）を使用しています。